

## 発 言 通 告 書

|         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 発言者氏名   | 高橋英昭                           |
| 発言の会議   | 平成29年11月29日 本会議                |
| 発言の種類   | 質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他 |
| 質疑等の方式  | 一 括、 <u>一問一答</u>               |
| 答弁を求める者 | 市 長、教育長                        |

### 【件名及び発言の要旨】

#### 1 居場所づくり事業について

##### (1) 留守家庭児童対策である学童クラブについて

ア 学童クラブ空白地である逸見・沢山・走水の3学区において  
設立が一向に進まない現状を率直にどのように感じているか。

イ こういった空白地にこそ公設の学童クラブ設立を現行の取  
り組みと同時並行で検討していくべきではないか。

ウ マンション建設などの住宅供給により、一時的に児童数がふ  
えている地域では学童クラブの不足が生じている。現在の対応  
状況と今後の対応策について伺う。

エ 住宅供給などにより不足が生じる場合、一時的な役割となる  
可能性がある。だからこそ、ニーズがなくなれば廃止も可能な  
公設学童クラブが必要ではないか。

オ 学童クラブの高すぎる平均保育料に低減目標を定めるつも  
りはおありか。また、目標を定めるのであれば、達成に向けた  
意気込みを伺う。

カ 学童クラブに関しては民か公かの議論ではなく、家庭状況に  
応じて選択できる形で整備するのが望ましいのではないか。

キ この事業における課題は多々あるが、対策の優先順位をどのように考えるか。

(2) 試行事業が開始された全児童対策について

ア 事業の開始が遅れたこともあり、課題を抽出するには、当初予定の試行期間では短いのではないか。試行期間を延長する考えはありますか。また、あるのであればどの程度の期間をお考えか。

イ 現状の1校のみの試行では不十分であり、それぞれの地域特性なども考え、やり方を変えるなどして数校で試行を行うべきと考えるが、いかがか。

ウ 今後、各小学校に展開していく際、余裕教室の状況はいかがか。また、市長部局からの要望に応じて教育委員会として十分な対応ができるのか、教育長に伺う。

(3) 中学生・高校生に対する居場所づくりについて

ア ショッピングセンターのフードコートや、ファストフード店に多くの学生がたむろしている。目的はさまざまだが、果たしてここが彼らの居場所であり、この状態が健全であると言えるのか、市長のお考えを伺う。

イ 各地を視察して、地域にかかわらず、中高生に共通のニーズがあると確信した。本市においても、若者の意見を聞く意味でもニーズの調査をすべきではないか。

ウ 今ある公共施設を活用するためにも、中高生から意見を聞いた上で居場所づくりについて試行的に取り組んでみてはいかがか。

## 2 郷土愛の醸成について

(1) 市長が掲げる「誰も一人にさせないまち」の実現のためにも横須賀に対する愛着を深める必要性があると感じるが、どのような方策をもって取り組まれるのか。

(2) 郷土愛を深めるための第一歩は、まちを知ることと考える。

友好都市である富岡市、なじみの深い高崎市（旧倉淵村）のある群馬県の上毛かるたに倣い、『横須賀かるた』をつくり、広めていくことで、横須賀愛を育むツールとして活用してはどうか。

- (3) 「かるた」という昔ながらの身近な玩具を使い、遊びながら自然に学ぶ、この効果をどのように考えるか。また、実際に『横須賀かるた』ができたとしたら、小学校での地域学習の一環として取り入れることについて検討に値するか、教育長に伺う。